平成 28 年度

「第 5 回 福岡市下水道技術検討委員会」議事録

I. 開催日時 平成 28 年 11 月 16 日（水）10：00～11：30

II. 開催場所 TKP 天神カンファレンスセンター
（福岡市中央区天神 1-10-13 天神MMTビル 6F）

III. 出席者

○福岡市技術検討委員会

委員長：楠田 哲也 九州大学東アジア環境研究機構 特別顧問，九州大学名誉教授

委員：有岡 律子 福岡大学 経済学部 教授

豊貞 佳奈子 福岡女子大学 国際文理学部 准教授

○福岡市道路下水道局

松本 頼親 総務部長

観音寺 修 建設部長

中村 伸二 下水道施設部長

藤井 良和 総務部 下水道経営企画課長

原田 康司 総務部 経理課長

津野 孝弘 計画部 下水道計画課長

原口 明 計画部 下水道事業調整課長

有働 健一郎 建設部 建設推進課長

佐藤 浩 下水道施設部 施設管理課長

IV. 議事内容

1. 開会

2. 議題

「福岡市下水道ビジョン 2026（原案）」に対する市民意見募集結果の意見要
旨と対応について（案）

3. 事務局より事務連絡等

4. 閉会

【議事要約】

1. 開会

- ・事務局より開会の挨拶
- ・総務部長挨拶
- ・楠田委員長挨拶

2. 議題

「福岡市下水道ビジョン 2026（原案）」に対する市民意見募集結果の意見要旨と対応について（案）

- ・事務局より資料に基づき説明。その後、質疑応答を行った。

【質疑応答】

委 員：事務局の説明内容について意見・質問等をお願いします。

委 員：市民からの意見については、専門の方なのか、非常に有意義な意見があるという印象で、特に、修正の意見はない。

コラム案5番の福岡市の水環境では、福岡市の特徴を表すことになると思うが、福岡は渇水都市として非常に有名で、それに対する対策として、節水トイレの普及が進んでおり、その成果として、家庭の水使用量が日本の平均と比較して非常に少ない。そういった、渇水という悪い部分よりも、それに対応し水を大切にすることが進んでいるということを考慮し、検討していただきたい。

また、3番の福岡市の特徴では、人口増加率第1位で、人口では神戸市を抜いて5位になったところも書いていただきたい。

委 員：コラムの分量はどれくらいを予定しているか。

事 務 局：下水道ビジョン冊子の余白等で、写真等を用いて各項目を紹介するため、1コラムにつき1ページの半分から1ページ程度の分量を予定している。

委 員：コラム案の内容は、現在の情報をわかりやすく伝える意味で非常に重要だと思うが、福岡市の下水道は、このように将来を考えているというコンセプトが入ってもよいのではないか。例えば、下水道の役割が変遷してきたという現在の事実だけではなく、将来どうなるというコンセプト、解説用のコラムと市民に将来の考え方をイメージさせるようなコラムがあればよい。福岡市道路下水道局の発想の豊かさが垣間見れるような幅広いコ

ラムがあるとよい。今の内容に加えて、もう少し将来の考え方を盛り込んでいただきたい。

もうひとつは、福岡市のプライドが見えるコラムであってもよい。

例えば、JICA 草の根技術協力事業でミャンマー・ヤンゴン市との技術協力は事実であるが、北九州市も JICA 事業でミャンマーへ行っている。

最近では東京都も行っているが、JICA 事業なのか。

事務局： 経済産業省から受けた調査と聞いている。

委員： ライバルに対して勝ち誇れるようなものがコラムに記載されている方がよい。そういう意味でも、プライドを持ってプレゼンスが高まるようなものであると市民としてはかっこよいと思う。

コラム 6 番の福岡市下水道の経営状況の政令市平均との比較では、近年の市域の拡大により政令市になった都市と比較すると福岡市はよいとなるが、政令市も色々あるため、比較相手を選択し比較しても福岡市が経営指標がよいとか、胸を張れるようなものであればよい。

事務局： 検討させていただきたい。

委員： 一つ一つ見ていくと色々な意見が出てくるが、委員の皆様方から沢山の意見を頂戴し、最終的な姿がよくなっていけばよいと思う。コラムは最終的に、編集者のセンスが問われる。本ビジョンは、計画期間の 2026 年まで 10 年間はコラムを見られ、この発想は非常によいとかの褒め言葉も 10 年続くため、よろしく願いたい。

委員： 市民意見では、Ⅱ-1 浸水対策の推進の 15 番に雨水法（「雨水の利用の推進に関する法律」（平成 26 年法律第 17 号）平成 26 年 5 月 1 日施行）の意見があり、また、学会でも雨水の活用指針が出されたりと動きが活発である。福岡は渇水地域であるため、雨水の利用は有効だと思う。

住宅に雨水タンクを設置し、トイレ用水に利用した場合、下水道料金はどうなっているのか。

事務局： 各戸で雨水を溜め利用している事例は多くある。庭の散水などに利用する場合は、自由に使っていただき節水に協力してもらっている。トイレ用水として使用している場合は、処理費用が必要なため自主的な申出により、下水道料金を追加徴収している。

委 員 : 申し出がないとカウントできないということか。

事 務 局 : 井戸水と同じ考え方である。

委 員 : 雨水利用の意見に対しては、福岡らしさという考えでは、キーポイントだと思うためコラム等検討いただきたい。

委 員 : 他に意見がないようなので、事務局へお返しする。

事 務 局 : この下水道ビジョンをテーマとした、下水道技術検討委員会は、本日の委員会をもって終了となる。

今後のスケジュールは、今回のご意見を反映したビジョン案により、再度市内部の議論、検討を行い、平成 29 年 3 月議会へ最終案の報告・策定の手続きを目指していく。

それでは、以上をもって第 5 回福岡市下水道技術検討委員会を終了する。

以上